



## 2024年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年9月15日

上場会社名 アスкул株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2678 URL <https://www.askul.co.jp/corp/investor/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 吉岡 晃  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO (氏名) 玉井 継尋 (TEL) 03-4330-5130  
 四半期報告書提出予定日 2023年9月28日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年5月期第1四半期の連結業績(2023年5月21日~2023年8月20日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年5月期第1四半期	113,074	2.7	2,827	△4.4	2,727	△7.4	1,729	△8.6
2023年5月期第1四半期	110,087	7.5	2,956	△9.6	2,947	△9.1	1,891	△12.1

(注) 包括利益 2024年5月期第1四半期 1,801百万円(△5.9%) 2023年5月期第1四半期 1,914百万円(△12.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年5月期第1四半期	円 銭 17.74	円 銭 17.70
2023年5月期第1四半期	19.41	19.39

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2024年5月期第1四半期	百万円 220,173	百万円 66,934	% 29.1
2023年5月期	227,506	66,876	28.2

(参考) 自己資本 2024年5月期第1四半期 64,119百万円 2023年5月期 64,145百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年5月期	円 銭 —	円 銭 16.00	円 銭 —	円 銭 18.00	円 銭 34.00
2024年5月期	—	—	—	—	—
2024年5月期(予想)	—	18.00	—	18.00	36.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 2023年5月期期末配当金の内訳 普通配当 16円00銭 30周年記念配当 2円00銭

## 3. 2024年5月期の連結業績予想(2023年5月21日~2024年5月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	482,000	7.9	16,500	12.9	16,200	12.1	10,300	5.2	105.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年5月期1Q	97,518,800株	2023年5月期	97,518,800株
② 期末自己株式数	2024年5月期1Q	62,406株	2023年5月期	62,406株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年5月期1Q	97,456,394株	2023年5月期1Q	97,446,929株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
3. その他	10
販売費及び一般管理費の明細(連結)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2023年5月21日から2023年8月20日まで）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が徐々に緩和され、国内消費の回復が期待されています。一方、ロシアのウクライナ侵攻等による原材料・エネルギー価格の上昇や円安による輸入価格の上昇は国内物価を上昇させ、家計・企業の活動に影響を与えています。

このような状況の中、当社グループは、前連結会計年度に達成した「売上成長カーブを変える」を継続しながら、2024年5月期では「利益成長カーブも変える」を最大のミッションと位置付け、中期経営計画（2022年5月期～2025年5月期）に掲げた最終年度の業績目標達成に向け、取扱い商品数の拡大に加え、B to B事業での積極的な広告費・販促費の投下、本格稼働した新アスクルWEBサイトへのお客様の移行等、当社グループの成長に繋がる積極的な施策を進めております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高1,130億74百万円（前年同期比2.7%増）、営業利益28億27百万円（前年同期比4.4%減）、経常利益27億27百万円（前年同期比7.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益17億29百万円（前年同期比8.6%減）となり、概ね期初計画通り進捗しております。

セグメント別の経営成績につきましては、以下のとおりです。

#### <eコマース事業>

当社グループの主力分野であるB to B事業につきましては、仕事場で働く全てのお客様のご要望にお応えすべく、飲料、日用消耗品等の生活用品商材、抗原検査キット等の新型コロナウイルス感染症関連商材、袋・梱包資材等のMRO（注）商材など、幅広く商品を取り揃えております。感染症法上の位置付けが5類に移行された新型コロナウイルス感染症関連商材については、抗原検査キット、消毒剤等の売上が減少しましたが、ペットボトル飲料や日用消耗品等の生活用品の売上が順調であったこと等に加え、主力商品の一部等について価格改定を行ったこと等により購入単価が上昇し、売上が伸長し増収となりました。

2022年7月の新アスクルWEBサイト構築に関連する一部機能（中堅大企業向けのWEBサイトであるソロエルアリーナサイトのオープン化）のリリースの効果による検索エンジン経由での売上高の増加は継続しております。当連結会計年度は、2023年7月に本格稼働した新アスクルWEBサイトへのお客様の移行を計画通り進め、投資効果を高めてまいります。

また、連結子会社である株式会社アルファパーチェスの業績が順調であることや、前連結会計年度末に連結子会社化した株式会社AP67の事業子会社であるフィード株式会社等の業績が当四半期累計期間を通じて寄与したことが、売上高の成長に貢献しております。

この結果、B to B事業の売上高は、前年同期比で83億43百万円増収の977億76百万円（前年同期比9.3%増）となりました。

B to C事業につきましては、当第1四半期連結累計期間の売上高は、Zホールディングスのコマース事業のコスト最適化によるキャンペーン変更も影響し、減収となりましたが、概ね計画通り進捗しました。当連結会計年度において商材拡大等により「LOHACO」の売上高再成長を進めております。

この結果、「LOHACO」の売上高は、前年同期比で51億36百万円減収の88億22百万円（前年同期比36.8%減）となり、B to C事業合計で、前年同期比で52億16百万円減収の130億41百万円（前年同期比28.6%減）となりました。

以上の結果、両事業を合計したeコマース事業の売上高は1,108億17百万円（前年同期比2.9%増）となりました。売上総利益は、生活用品の売上高の増加や一部商品の価格改定等により売上総利益率が改善し、277億12百万円（前年同期比4.4%増）と大幅な増益となりました。

販売費及び一般管理費は、投資を行ってきた新アスクルWEBサイトや「ASKUL東京DC」の稼働によりソフトウェア償却費や減価償却費が増加し、また、当連結会計年度の売上拡大施策の一つであるB to B事業に係るインターネット広告出稿の増加等により、売上高販管費比率が前年同期比0.6ポイント増加し、248億20百万円となり、営業利益は28億91百万円（前年同期比3.9%減）となりました。

#### <ロジスティクス事業>

ASKUL LOGIST株式会社の当社グループ外の物流業務受託の売上高は概ね前年同期と同水準で推移したものの、原価高騰等の影響により採算が悪化し、減収減益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は20億7百万円（前年同期比5.9%減）、営業損失は79百万円（前年同期は営業損失73百万円）となっております。

<その他>

孺恋銘水株式会社での飲料水の販売が堅調に推移し売上高は前年同期と同水準となりましたが、営業利益は生産性が向上し増益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は5億52百万円（前年同期比0.4%減）、営業利益は39百万円（前年同期比16.8%増）となっております。

（注）Maintenance, Repair and Operationsの頭文字をとった略称で、工場・建設現場・倉庫等で使用される消耗品・補修用品等の間接材全般を指します。

（2）財政状態に関する説明

（資産の部）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は2,201億73百万円となり、前連結会計年度末と比べ73億32百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が28億80百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が10億21百万円、未収入金が10億19百万円減少したことによるものであります。

（負債の部）

当第1四半期連結会計期間末における負債は1,532億39百万円となり、前連結会計年度末と比べ73億90百万円減少いたしました。これは主に、電子記録債務が25億86百万円、未払法人税等が20億31百万円、支払手形及び買掛金が15億41百万円減少したことによるものであります。

（純資産の部）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は669億34百万円となり、前連結会計年度末と比べ57百万円増加いたしました。これは主に、非支配株主持分が84百万円増加したこと、親会社株主に帰属する四半期純利益17億29百万円計上に対し、配当金の支払いが17億54百万円あったことにより、利益剰余金が25百万円減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年7月4日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年5月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年8月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	66,223	63,342
受取手形、売掛金及び契約資産	51,954	50,933
商品及び製品	22,017	21,175
原材料及び貯蔵品	306	285
未成工事支出金	112	193
未収入金	12,623	11,604
その他	2,757	2,336
貸倒引当金	△36	△32
流動資産合計	155,958	149,838
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,031	10,068
減価償却累計額	△4,648	△4,787
建物及び構築物（純額）	5,382	5,280
土地	247	247
リース資産	30,268	30,268
減価償却累計額	△11,850	△12,605
リース資産（純額）	18,417	17,662
その他	11,719	11,763
減価償却累計額	△8,729	△8,851
その他（純額）	2,989	2,911
建設仮勘定	825	899
有形固定資産合計	27,862	27,001
無形固定資産		
ソフトウェア	7,950	18,250
ソフトウェア仮勘定	11,037	991
のれん	5,533	5,398
顧客関連資産	8,064	7,933
その他	9	10
無形固定資産合計	32,594	32,585
投資その他の資産		
投資有価証券	159	159
繰延税金資産	4,226	3,848
その他	7,545	7,578
貸倒引当金	△840	△838
投資その他の資産合計	11,091	10,748
固定資産合計	71,547	70,335
資産合計	227,506	220,173

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年5月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年8月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	54,614	53,073
電子記録債務	33,683	31,096
短期借入金	380	380
1年内返済予定の長期借入金	10,127	9,727
未払金	12,356	11,425
未払法人税等	2,677	646
未払消費税等	423	1,033
引当金	373	618
その他	5,863	6,255
流動負債合計	120,499	114,258
固定負債		
長期借入金	10,337	9,899
リース債務	16,850	16,071
退職給付に係る負債	4,764	4,847
資産除去債務	3,190	3,192
繰延税金負債	2,750	2,706
その他	2,236	2,263
固定負債合計	40,130	38,980
負債合計	160,630	153,239
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,189	21,189
資本剰余金	14,906	14,905
利益剰余金	28,120	28,095
自己株式	△92	△92
株主資本合計	64,124	64,098
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	20	20
その他の包括利益累計額合計	20	20
新株予約権	0	0
非支配株主持分	2,729	2,814
純資産合計	66,876	66,934
負債純資産合計	227,506	220,173

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月21日 至 2022年8月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月21日 至 2023年8月20日)
売上高	110,087	113,074
売上原価	83,425	85,253
売上総利益	26,661	27,820
販売費及び一般管理費	23,705	24,992
営業利益	2,956	2,827
営業外収益		
受取利息	9	9
助成金収入	6	1
保険配当金	12	6
その他	43	12
営業外収益合計	72	28
営業外費用		
支払利息	58	104
その他	23	23
営業外費用合計	82	128
経常利益	2,947	2,727
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	22	-
その他	0	-
特別利益合計	22	0
特別損失		
固定資産除却損	15	14
貸倒引当金繰入額	-	4
その他	1	0
特別損失合計	16	19
税金等調整前四半期純利益	2,952	2,709
法人税、住民税及び事業税	742	574
法人税等調整額	300	332
法人税等合計	1,042	907
四半期純利益	1,909	1,801
非支配株主に帰属する四半期純利益	18	72
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,891	1,729



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月21日 至 2022年8月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月21日 至 2023年8月20日)
四半期純利益	1,909	1,801
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	4	△0
その他の包括利益合計	4	△0
四半期包括利益	1,914	1,801
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,895	1,729
非支配株主に係る四半期包括利益	18	72

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年5月21日 至 2022年8月20日)

報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報ならびに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	eコマース 事業	ロジスティク ス事業	計				
売上高							
BtoB事業	89,432	—	89,432	—	89,432	—	89,432
BtoC事業	18,257	—	18,257	—	18,257	—	18,257
ロジスティクス事業	—	2,133	2,133	—	2,133	—	2,133
その他	—	—	—	263	263	—	263
顧客との契約から 生じる収益	107,690	2,133	109,823	263	110,087	—	110,087
外部顧客への売上高	107,690	2,133	109,823	263	110,087	—	110,087
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	290	290	△290	—
計	107,690	2,133	109,823	554	110,378	△290	110,087
セグメント利益 又は損失(△)	3,008	△73	2,934	33	2,968	△11	2,956

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△11百万円は、セグメント間取引消去△11百万円になります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年5月21日 至 2023年8月20日)

報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報ならびに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	eコマース 事業	ロジスティク ス事業	計				
売上高							
BtoB事業	97,776	—	97,776	—	97,776	—	97,776
BtoC事業	13,041	—	13,041	—	13,041	—	13,041
ロジスティクス事業	—	2,007	2,007	—	2,007	—	2,007
その他	—	—	—	249	249	—	249
顧客との契約から 生じる収益	110,817	2,007	112,824	249	113,074	—	113,074
外部顧客への売上高	110,817	2,007	112,824	249	113,074	—	113,074
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	303	303	△303	—
計	110,817	2,007	112,824	552	113,377	△303	113,074
セグメント利益 又は損失(△)	2,891	△79	2,811	39	2,851	△23	2,827

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△23百万円は、セグメント間取引消去△23百万円になります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3. その他

## 販売費及び一般管理費の明細(連結)

科目	前第1四半期 連結累計期間 (自 2022年5月21日 至 2022年8月20日)		当第1四半期 連結累計期間 (自 2023年5月21日 至 2023年8月20日)			(参考) 前期 2023年5月期 (自 2022年5月21日 至 2023年5月20日)	
	金額 (百万円)	売上比 (%)	金額 (百万円)	売上比 (%)	前年同期比 (%)	金額 (百万円)	売上比 (%)
人件費 ※1	5,543	5.0	6,357	5.6	114.7	22,712	5.1
配送運賃 ※2	6,347	5.8	5,654	5.0	89.1	21,843	4.9
業務外注費	1,179	1.1	1,220	1.1	103.5	4,748	1.1
業務委託費	3,119	2.8	2,882	2.5	92.4	11,696	2.6
地代家賃	2,807	2.6	2,772	2.5	98.7	10,835	2.4
貸倒引当金繰入額	2	0.0	△4	△0.0	—	16	0.0
減価償却費 ※3	831	0.8	948	0.8	114.0	3,451	0.8
ソフトウェア償却費 ※4	674	0.6	1,069	0.9	158.5	2,739	0.6
その他諸経費 ※5	3,198	2.8	4,090	3.7	127.9	14,375	3.2
合計	23,705	21.5	24,992	22.1	105.4	92,420	20.7

※1 前年同期と比較して、当第1四半期連結累計期間の人件費が増加しておりますが、主な要因は、株式会社AP67他4社の連結および人員増による影響であります。

※2 前年同期と比較して、当第1四半期連結累計期間の配送運賃が減少しておりますが、主な要因は、一箱あたりの売上高の増加、売上高配送運賃比率の低いBtoB事業の売上割合の増加による影響であります。

※3 前年同期と比較して、当第1四半期連結累計期間の減価償却費が増加しておりますが、主な要因は、2022年11月の「ASKUL東京DC」の稼働による影響であります。

※4 前年同期と比較して、当第1四半期連結累計期間のソフトウェア償却費が増加しておりますが、主な要因は、2023年7月のBtoB事業における新アスクルWEBサイトの本格稼働による影響であります。

※5 前年同期と比較して、当第1四半期連結累計期間のその他諸経費が増加しておりますが、主な要因は、BtoB事業におけるインターネット広告の強化による影響であります。